

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400155		
法人名	特定非営利活動法人 権利擁護あさひ		
事業所名	グループホーム ぴあ出石		
所在地	兵庫県豊岡市出石町福住317		
自己評価作成日	令和 8年 3月 10日	評価結果市町村受理日	令和8年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [ps://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topjigyosyo_index-t](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topjigyosyo_index-t)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201
訪問調査日	令和8年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

このグループホームでは、利用者さんと職員の関係や、利用者様同士の繋がりを大切にして、できるところは頑張ってもらい、できないところは手伝い、共に暮らす仲間として、居心地のよい支援、介護に努めています。また、少人数ならではの個別支援やイベント、レクリエーションに力をいれ、利用者様の笑顔を大切にする支援をしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来職員は、「利用者中心」の生活を念頭に置いて日々実践している。利用者自らが選択できるよう、選択しやすい環境やさりげないサポート、個々の特性や役割を見出し働きかけることで、これまでのその人らしい暮らしが継続されている。家族と離れていてもコミュニケーションがとれるよう間に入り声かけに努め、時には通院時に自宅に寄ったりと家族との関係性を大事にしている。おだやかな日常の中で趣味や特技を披露したり、活かす場の工夫など、利用者9人と職員の共同生活は、少人数ならではの心が通い合い互いを思いやれるぬくもりのある小さな家族である。これも、充足した正規職員の雇用及び非常勤の看護職員の配置というベースがあってこそであり、利用者の安心と心豊かな暮らしの実現につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 者 第3	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に策定した理念は継続して掲げている。玄関や事務所に掲示して職員のケア基本姿勢としている。職員会議では、理念に基づいたケアを実践すべく討議し日常のケアに繋げ、利用者の自立した生活の支援を行っている。	職員の入職時には、その都度オリエンテーションのなかで法人理念や基本方針、認知症ケア等を説明し、日々の業務を通じて具体的に学んでいる。「利用者中心」のケアを重視していることを実践から身に付けてもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域子供会の子ども神輿の来所があったり、地域のイベント納涼祭に参加させて頂いた。また地域のコミュニティを貸し切りクリスマス会を企画し、地域のサークル、他施設グループホームの方々を招待して地域合同のイベントを実施している。	地区の町会ごとに行われる季節行事に利用者も一緒に参加したり、地域の居場所で事業所主催の行事を定期的に開催することも増え、地域の子どもたちや住民との交流は広がりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の会議参加の場で当ホームの事例や支援の方法など伝え、認知症についての理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員には、行政職員のほか、地域の町会役員や民生委員が参加し、この地域の特長やニーズについて話し合いをいっている。より地域に密着した地域の福祉（認知症）の拠点として頼りにされるように取り組んでいる。	地域代表者の他、家族代表や利用者も参加して、意見交換を行っている。事業所の活動報告や今後の予定、利用者の様子などを毎回伝えている。地域の現状、課題なども挙がり、それぞれの立場から意見や状況説明などが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の来所 三者懇談会 生活保護の利用者面談 運営指導 高年介護課への相談、連絡、助言など 協力関係を築いている。	定期的な情報交換等、担当課とは密に連絡を取り合っており、何かあった折りには相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化検討委員会設置（身体拘束ゼロ）を目指して周知徹底している。	身体拘束等適正化検討委員会で定期的な研修、検討会を開催している。DVDや動画を視聴したり、関連資料を参考に学んでいるが、身近な事例として事業所での事例を取り上げグループワークで話し合い、職員間で共有を図っている。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時の研修や職員定例会での学習会を行い周知徹底している。身体拘束等適正化検討委員会で、不適切なケアについて学習会を開催し虐待防止に努めている。	身体拘束等適正化委員会の中で虐待防止について同様に学んでいる。「利用者中心」のケアに向け、職員は利用者の行動を制限することはないと、常に心がけている。管理者は、職員が希望の休みがとれるよう配慮するなど、ストレス軽減に努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者1名が後見制度の利用となるタイミングで、職員へ成年後見制度の学習会を実施し、制度の理解、手続きの流れ等を学ぶ機会とした。また、新しく入居される利用者ご家族へパンフレット等を渡し情報提供している。	契約時に制度説明と資料を提示し、必要に応じて相談にも応じることを伝えている。資料はいつでも見ることができる場所に用意しており、職員は学習会で大まかな理解はできている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学、説明を行い、不安や疑問、意向を聞きながら納得を得たうえでの契約を結んでいる。	管理者は、最近は切羽詰まって相談や見学に来られる家族が多いと感じている。家族からの不安や疑問にも丁寧に対応するとともに、事業所としてできる事やできない事について納得してもらい、緊急時の確実な連絡先についても確認し、速やかな対応をお願いしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見の出やすい雰囲気作りに努め、面会後等にご家族とコミュニケーションを図り思いを汲みとるよう努めている。 要望は利用者個々に関することがほとんどであり、出来る範囲で沿うように努力している。	家族の来訪時には、必ず話をする時間をとるよう心がけ、相談にも対応している。現状、運営に関する意見等をもらうことはないが、個別の要望など些細な事でも話してもらえるよう努めているが、十分ではない。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や職員定例会などを通じて職員の要望や意見を聞き、運営や職員の勤務条件改善につながっている。会議では、誰でも活かしやすい環境に努めている。	各会議で職員からの意見や提案を出してもらい、積極的に反映し、活かしている。中でもレクリエーションに関しては、委員会企画、立案し実践している。環境整備や業務に関する事など、職員による工夫が活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	共に同じ環境で働くことにより職員個々の努力や勤務状況の把握に努める。法人全体の福祉職場における給与水準の低さを克服し、労働環境の改善に客観的社会状況を踏まえて改善に向かうようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や職員全体会議に参加するよう努め、また初任者研修などの受講に協力して職員の力量を高めている。職場内でも学習会等で職員の育成に努めている。		

自己	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協会に加盟して、毎年行われる全国大会に参加して同業者との交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活スタイルを尊重しながら本人や家族の要望を聞き、ご本人のニーズや状況に適した支援ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソンを中心に要望の把握と要望の実現に努めている。笑顔や身だしなみ、言葉遣いに気を付けご家族が相談しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容について本人と家族に説明し、同意を頂いた内容の充実に努める。入所後のカンファレンスを実施しながら、本人に適した支援内容の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々を楽しく過ごして頂ける雰囲気を利用者と共に作っていく。利用者の力を活かせるようせかさず「待つ」ことを心がけている。施設の仕事を手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と良好な関係を築く上で、面会や、ぴあニュース、手紙、タブレット等を活用し、利用者の様子を家族へ発信している。家族と外出(自宅、買い物、食事)されたり、お盆には墓参りにいかれている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期受診の際にご自宅へ寄ったり近所を散歩したりする支援を行っている。またその時に近所の方とお話しされ近況を伝えている。また、趣味のサークル活動など本人が望む支援を行っている。	これまで続けている趣味の楽しみや特技、仕事としてやっていたことなどを披露してもらったり作成してもらうことは多い。プロ顔負けのハーモニカ演奏や元英語教師による英会話レッスン、職人技の手作りの品など積極的に発揮してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が安全に過ごせるよう席の場所にも配慮し、職員も関わりながら楽しく過ごして頂けるような雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の弔事には参加させて頂くようにしている。ご家族からの相談事等あればお話をお聞きし良好な関係の維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人のかかわり方が違うためその方に合った言葉かけや行動を心がけています。言葉以外でも、体をさすったりすると表情も穏やかになり、心が通っていると実感しています。職員の言葉によって他利用者様への理解を求め、和気あいあいとした生活が送って頂けるよう努力しています。	意思伝達できる利用者は、その思いを実現できるように支援している。個別の希望には可能な限り希望を叶えるよう支援している。意思を表明しにくい利用者の思いは、日常的にコミュニケーションを重ね、表情やアイコンタクトで思いを汲み取れるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前と大きく変化のない生活歴や環境、昔話等を日常会話に取り入れ他職員と連携を取り情報の共有を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックで、体調の変化等あるときは、様子観察や、看護師の指示をもらい、情報の共有を行う。 特記事項への記入、引継ぎ等活用。		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当を決め、各担当の職員がカンファレンスを実施し、問題点や見直し、ケアの統一を共有し、その人らしい生活を支援できるよう話し合いの場を作り、介護計画とモニタリングを行っている。それらは毎月、ご家族へ送付し確認をしてもらっている。	個別ケア実施表には毎日のケアの必要事項を記入する一覧表となっている。排泄記録としても機能している。担当者はカンファレンスを実施しておりモニタリングに充当する内容となっている。毎月のモニタリングや申し送り、アセスメントを集約し、ケアマネジャーは介護計画を適切に更新している。家族の要望は電話で聞き取ることが多い。家族承認は郵送でのやり取りがほとんどである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常あまりされない行動や、発語等がみられた場合は、しっかりと記録に残し情報として共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の方や他の事業所の利用者様や、ご家族も参加しての、びあ祭りを行いました。家族同士の交流や、障害のある方でもみなさんと交流でき、すばらしいイベントになりました。ご家族の方々にも時間をとっていただき、ゆっくり家族でお話が出来たと思います。冬には大規模なクリスマス会を実施しました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別ケアで外出支援を実施。通院後のドライブ、自宅の訪問などを行い、近隣との関わりがある。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人、家族の意向をできるだけ尊重し定期受診している。かかりつけ医が遠方また長時間の通院を要す場合は、家族の協力を得ながら、医療機関との連携に努めている。	利用者全員がそれぞれ異なるかかりつけ医で受診している。受診または他科受診についての付き添いは家族同行を基本としているが、都合のつかない時は看護師・管理者・ケアマネが同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調や皮膚の状態などに変化がある場合、介護職員から看護師に情報を伝え指示を受ける。また、感染症予防対策の研修を実施し、より安全な支援に努めている。		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の日頃の様子を速やかに医療機関へ情報提供し、利用者が安心して入院生活を送れるよう支援している。退院時も医療機関との情報共有により円滑な受け入れ体制を整えている。	入退院事例は少ない。病院側の面会制限なども緩和されているので退院前カンファレンスには管理者・ケアマネが参加している。入院時は看護師がサマリーを提供し退院時は病院からのサマリーを受け、スムーズな受け入れ体制で利用者、家族が不安に感じることの無いよう支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合や終末期における対応の指針を説明している。実際に利用者が重度化した場合、より個別具体的に今後予測し得る状態及び施設で可能な支援を本人、家族に説明し、できる限り本人の意思に沿う支援に努めている。	契約の際に「延命措置に関する意思確認書」「急変時の救命救急医療、延命措置について」「看取りケアについての説明及び同意の内容」を提示、丁寧に説明を行い家族の不安を払拭し、納得を得られるよう努めている。当該時期には医師を含め本人・家族の思いを尊重した話し合いが持たれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は、管理職、看護師に連絡し指示に従って対応している。急変が事前に予測し得る場合は、予め医療機関と対応を打ち合わせておき、速やかに対応できるよう努めている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火・防災訓練を利用者と実施している。また消防署の協力を得て夜間の火災を想定した訓練や、消火器を使用した初期消火訓練を実施している。	BCPが策定され、防災マップも掲示されている。法定研修の消防訓練が消防署立ち合いの上で実施されている。また外部に向けての防災サイレンが設置され、外部からの人的救助が要請できるようになっている。最小限ではあるが、災害備蓄品は保管、管理されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意思疎通が難しい方にも不快な思いをしないよう丁寧な声かけをして、プライドも守り、プライバシーの確保と尊厳を守る言葉かけを心がけしながら対応している。	各居室へ立ち入る際に、必ず利用者の了解を取り無断で入室することが無いように徹底指導している。また、個人への声掛けが周りに聞こえないよう配慮している。排泄が自立している利用者が複数名いるが排泄後の様子をさりげなく確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関係を良好に保ち、希望を言いやすい関係づくりや、コミュニケーションを大切に思いやりある声かけをし、自己決定がスムーズに行えるように支援している。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の自己決定を重視し、職員都合を押し付けずに、一日を大切に過ごせていた だけの支援をしている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	一人ひとりの好み、その日の気温などに 合った装いをしていただき、一日を気持ちよ く過ごしていただけるよう支援している。また 整容や男性はひげそりの支援をしている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるように利用者様の好み、季節を 感じる旬な物、彩り、バランスのとれた食事を提 供し、その方に合った食事形態などにも気をくば り、量の希望など、安心して召しあがっていただ けるように支援している。	調理専属担当者を配置している。事前に発注し た食材が届けられる。行事食や利用や希望のメ ニュー含め、担当者が冷蔵庫の在庫を活用するこ とでバラエティーに富んだ献立となっている。お正 月にはおせち、誕生日には必ず赤飯が用意され ている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	その日の体調や、こまめな水分補給に気を 配り、栄養バランス、水分摂取量、病歴など も考慮しながら、記録を記入し、嗜好をとり いれた支援をしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食後の口腔ケアを行い、本人の状況に合 わせた、歯ブラシ・口腔スポンジ等を用いて 行っている。義歯は、毎夜、洗浄液につけ保 管している。仕上げ等、本人が難しい場合に 介助している。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりに合った排泄ケアを行い、自立に 向け声かけや、意識付けを行い、排泄パ ターンを習慣にする支援、なるべくトイレで の排泄を心がけ、気持ちのよい排泄に努め ている。	常時おむつ使用の利用者がいるが汚染がある たびに入浴、シャワーを使っているため皮膚状態 はすこぶる良好に保たれている。布パンツへのこ だわりが強い方には日中、布パンツで過ごせるよ う支援している。夜間常での誘導については、セ ンサー使用やポータブル使用等々、常に検討を重 ね清潔・快適につながる方策を探っている。	

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や、水分補給、野菜が多い料理を提供している。排便が無い日が続いた時は看護師に相談し、排便コントロールしている。	
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく本人の希望に沿うように、時間、湯加減等の調整を行い、車椅子の方でも二人介助にて湯船に入る支援を行っている。ヒートショックや寒さ対策として、浴室、脱衣所は、必ず温めて快適ようにしている。	入浴は午後から4～5名で計画実施している。入浴を好まれない方については曜日変更などで柔軟に対応し、週に2～3回の入浴を提供できている。2人対応で浴槽につかれるよう支援し、好みのシャンプーを持ち込んだり、入浴剤を使うなど入浴を楽しむ工夫をしている。また、同性介助に努めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて休まれます。昼食後に、午睡の時間を設けており、自由に過ごしていただいている。就寝前にはトイレ案内、寝衣へ更衣、室内の温度管理等を温度計で見て行っている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬できるよう支援している。看護師が配役の管理を行い、各利用者の情報ファイル、連絡ノートや受診ノートに記入して職員が確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間を通し多くのイベントをレク委員で計画している。外出支援等も行っている。利用者の特技の披露や、誕生日のお祝い、友人に会えるような支援をしている。	
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必要な日用品や衣類の買い物に出かける支援につとめている。車で市内の店までドライブも含め、おしゃべりしながら目的地へと行く。外出先では楽しいティータイムもとりながら、いつもとちがう笑顔が見られます。また、ご家族付き添いで趣味のサークルや、ご自宅など、お出かけをされています。	近隣の(お地藏様)への散歩は日常的に出かけられている。前庭は広く椅子があたり花が咲いていたり、猫が日向ぼっこしている様子がみられ、のんびりと外気浴のできる環境である。家族の付き添いで昔からの趣味のサークルへ出かける人、自宅へ行かれる人などがいる。途絶えていたワゴン車での、全員揃っての外出計画を準備している。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持して買い物に行くときは、平日の人が少ない日を選び、自分で品物を手に取って選んでもらいレジに並び自分で支払いまで支援をしています。 通常は金庫保管をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話やタブレットを使ったLINE電話で、顔を見ながら話せる支援を行っている。年賀状も毎年送り、ご家族とのコミュニケーションを支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、食堂兼リビングがワンフロアーになっていて、食事を作る時の音や臭を五感で感じていただいている。フロアーの壁には利用者様の作品を飾っている。手作りカレンダーの壁掛けも掛け替えている。暖かく明るいデイルームに加湿空気清浄機や温度計を設置しよりよい空間づくりに努めている。窓からは外の畑や山などが見え、季節の変化を感じてもらっている。	リビングは程よい広さで、窓からは季節が感じられる風景が広がっている。全員の近い距離感が温かな関係性を感じさせる。台所からは調理のにおいが漂い食欲増進の一助となっている。壁面には利用者作品やカレンダーなどが飾られ目を楽しませる。一人になれるスペースも確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、玄関、庭等にベンチや椅子を常備しており、一人の時間がとれるよう配慮している。席については、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での環境に近づけるよう、今まで使われていたイスやタンスを持ってきて頂きご本人やご家族様と相談しながら居心地よく過ごせる環境作りに努めている。ご家族から送られた写真やハガキ等を壁に貼りいつでも目にとまるようにしている。誕生日の色紙や作品なども飾ったり、趣味の物を持参して楽しんでいる利用者もあります。	各居室の入り口はトールペイントの表札が配されている。季節感のある折り紙作品も飾られ温かみを感じられる。レンタルのベッド・エアコン・カーテン・ミニテーブルが準備され、クローゼットは大容量なのですっきりとした印象である。趣味の機器、目線に家族写真、色紙、手作り作品などがとりどりに飾られ、個性が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	衣替えを一緒に行う。入浴の準備を一緒に行う。トイレを分かりやすく表示。利用者の動線に障害物を置かない。安全に配慮。		

(様式 2)

事業所名：グループホームぴあ出石

目標達成計画

作成日：2026 年 4 月 10 日

優先 順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	37	利用者が日常的な生活が心地よく過ごせる支援の継続。	利用者の希望の表出や自己決定の支援	自己決定しやすい環境を整える。 信頼関係を大切にして、安心できる雰囲気づくりに努める。	12 ヶ月
2	27	職員のモニタリングの共通化を図るため、個別プログラムの記入を徹底する。	利用者への支援内容の記録と実践への反映	記録記入を効率的に行い、利用者への支援内容を積極的に個別プログラムへ記録する。	12 ヶ月
3	13	外部の介護技術など研修後に、発表の場をつくり、研修を受けていない職員にも学習できる機会の確保。	職員を共に育てる取り組み	外部、内部研修の実施。 外部研修後は学びの情報共有のための学習会を行う。 資格支援やキャリアアップ支援。	12 ヶ月

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☒ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☒ ②利用者へサービス評価について説明した
		☒ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☒ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		☐ ⑤その他()
2	自己評価の実施	☒ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☒ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☒ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☒ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☒ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☒ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☒ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☒ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☒ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	☒ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☒ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☒ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☒ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		☐ ⑤その他()